

曲輪の球体展 大藤の息吹

北方文化博物館の中庭にある樹齢百五十年の大藤。春には見事な花を咲かせ多くの人を魅了します。

その秋の大藤棚に、長岡市無形文化財「寺泊山田の曲物」の技術を継承する足立照久が作る「曲輪の球体」を展示しました。展示するのは空間演出の小畑智之。見る人に驚きと喜びを与えます。

会場音響を担当するのは関利朗。BGMで展示の雰囲気盛り上げます。

細く割った檜（ひのき）の曲輪を球状に組み、山桜の皮で綴じ合わせた「曲輪の球体」。

職人の手で一つ一つ丁寧に作られた「曲輪の球体」と、北方文化博物館の代名詞ともいえる一本の幹から広がる大藤棚。長い年月を経て今に至った両者の姿に、接点や類似性のようなものを感じました。

地面から大きく積み上げられた「曲輪の球体」を一本の木ととらえ、藤棚に吊り下げた球体は木からつながる枝や実をイメージしています。球体からなる木が藤棚の中で根付き、絡み合い、人の技術と自然とが調和していきます。

このインスタレーションを通じて、今日まで続く大藤の歴史と新たな文化の息吹を感じていただきたいと思います。

【球体製作】足立照久

新潟県長岡市寺泊山田に伝わる曲物の技術は「寺泊山田の曲物」として長岡市無形文化財に指定されています。

山田篩業組合に所属する「足立茂久商店」十一代目の足立照久は、篩（ふるい）裏漉し（うらごし）蒸籠（せいろ）といった曲物の道具を作る職人です。

代々受け継がれてきた技術を基に「曲輪の球体」という、これまでの曲物にはない新しい形を生み出しました。

【空間演出】小畑智之

長岡市の建設会社に勤務し日々設計活動を行っています。

数年前から「寺泊山田の曲物」をはじめとした展示会の構成に参画。

展示では特に伝える場の「空気感」を大事にしています。

会場は北方文化博物館には文化、自然、人が心地よく絡み合ながら時を重ねている光景に感銘を受けました。

今回、北方文化博物館と寺泊山田の曲物の歴史の融合を目指します。

【会場音響】関利朗

高校1年生でオーディオの楽しさに目覚め、スピーカーの自作を始めます。

足立茂久商店の足立照久氏とは仕事上の縁でしたが、いつの間にか展示会の音響を手伝うようになりました。

今回の展示で使用するスピーカーの製作も手がけています。



ほっぽうぶんかはくぶつかん

豪農の館 北方文化博物館

NORTHERN CULTURE MUSEUM

（一財）北方文化博物館

〒950-0205 新潟県新潟市江南区沢海2丁目15-25

TEL.025-385-2001 / FAX025-385-3929

<年中無休> 9:00~17:00 <入館料> 大人 800円 小人 400円

【主催】山田篩業組合【後援】長岡市、寺泊町商工会、寺泊観光協会

【協力】一般財団法人 北方文化博物館

